

令和5年度事業報告書

令和元年に中国で新型コロナウイルス感染が報告されて以来、全世界で感染が拡大し、日本国内においても史上初の「緊急事態宣言」が発令され、誰もが想定していなかつた様々な規制や行動制限等により今までの生活環境が一変する事態に当協会は厳しい事業運営を強いられ、財源の確保と徹底したコスト削減及び公的支援を受けて事業継続を図ってきたものの、依然として続いている国際情勢の緊迫化で物価上昇による影響を受け、当協会を取り巻く環境は一段と厳しくなっている。

令和5年度の事業活動は、財政運営が極めて不確実な状況下ではあったが、当協会の事業に賛同していただける企業・団体をはじめとする多くの方々とJR各社及びその関連会社のご支援とご協力をいただき事業計画を達成することができた。

1 マナー向上運動

コロナ禍で長引く日常生活への制約による厳しい状況が緩和されつつあるが、当協会は鉄道を利用されるお客様に感染リスクを低減し、交通道徳意識の高揚と安全・安心について訴えてきた。

(1) 旅のニューマナー運動の推進

JR 6社の主要駅に配備してある交通道徳協会所有のマナーボードに年間を通してマナー向上のポスターを掲出し、お客様に旅のマナー向上を訴えた。

(2) JR各社のマナー向上運動に協賛

JR各社が実施するマナー向上キャンペーンポスターに当協会も参画し、列車内の乗車マナー、エスカレーターご利用マナー、ごみの分別等を訴えた。

(3) マナー向上キャンペーンの推進

JR・JT・当協会の三者が連携して、乗車・喫煙マナー向上キャンペーンは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で令和2年度は開催できなかったが、令和3年度以降は大変厳しい状況の中、毎年度1回開催してきた。令和5年度はマナーピクトを変えて2回開催し、1回当たり新幹線及び特急列車を除く全列車（16,574 車両）の中吊りポスターと全国駅構内（1,934 駅）に駅張りポスターを掲出して、訴求力を高めるように努めた。

2 鉄道少年団

鉄道少年団はコロナ禍で活動の中止や自粛が余儀なくされてきたが、前年度からコロナ禍も落ち着きを見せ始め、令和5年5月に感染症法上の5類感染症に移行されるなど、コロナ禍以前の「日常」を取り戻しつつある中で、全国の鉄道少年団は対面活動を中心に、社会貢献活動、体験学習、団体行動訓練を三つの柱としてJR各社の鉄道施設とその周辺及び公共施設において、実践活動やキャンプ、イベント、各種施設の見学等を実施し、団体行動訓練をベースにした組織や集団を含む生活のなかで、団員はスキルアップと鉄道少年団の社会的意義を明確にして、その使命を行使することができた。

また、コロナ禍で団員の減少や組織改正による指導体系の変更に伴い鉄道少年団の活動に支障を来たさないように取り組んできた。

(1) 社会貢献活動の推進

「ルール・マナー・モラル」を正しく理解して行動することで、美しい自然と駅や街をきれいにし、安全・安心な社会と人を大切にする将来に引き継ぐための取り組みを行った。

① マナー啓発活動

駅構内において、手作りポスターで乗車マナーアップを呼びかける。JR各社が行う「やめましょう！歩きスマホキャンペーン」、「エスカレーターの安全なご利用方」、「踏切事故防止キャンペーン」に参加するなど、事故防止に努めた。

② 環境美化活動

JR各駅構内及び駅周辺や無人駅の清掃から新幹線や在来線の列車内清掃やごみ回収を行った。

「まちなか」の沿道、公園、SL広場や公共施設などの清掃、観光地や鉄道関連施設の清掃を実施した。

③ ボランティア活動

各地域の赤い羽根共同募金に参加した。

盲導犬普及活動に取り組んだ。

老人介護施設、児童館を慰問して支え合う心や姿勢の大切さを感受した。

(2) 体験学習の充実

コロナ禍で社会生活の規範や価値観に大きな変化がもたらされるなか、自然と人や社会に対応できる共生力と判断力・行動力を身につけるようJR各社や地域のご理解とご協力をいただき様々な体験を通して団員のスキルアップに取り組むことができた。

① 鉄道体験

JR各社の駅・車両センター等の職場見学や研修・訓練センターを訪ねて、駅の出改札の仕事、車両検査の仕事、運転士・車掌の仕事、施設・電気設備の仕事を学び体験することで鉄道知識を身につけ、駅構内や鉄道イベント会場等の活動に活かすことができた。

② 疑似体験

高齢者や身体の不自由な方々に対する思いやりの心を醸成するために「物を見る」、「音を聴く」、「歩く」といった身体の動きや機能が制限された状態を体験することで、具体的な行動が起こせるよう取り組んだ。

③ 防災体験

近年、大震災、自然災害、異常気象による災害や火災が全国各地で発生し、多くの方々が被害に遭われている。

鉄道少年団は、防災体験館や消防署を見学し、地震・津波の体感型アクション、映像シアターなどで災害発生時の体感や火災発生時の初期消火訓練、通報訓練をするなど、災害に直面した際の防災行動力を身に付けた。

(3) 地域社会への取り組み

全国各地で開催する祭やイベントに参加し、パレード出場、イベント出演、他団体との交流、会場のごみ拾いやお手伝いなどで、地域の活性化と生活環境や自然環境の美化・保全に積極的に取り組むとともに、鉄道少年団の存在をアピールした。

信濃川川岸段丘ウォーク

「鉄道の日」に国土交通省が主催する「鉄道フェスティバル」

恵那市が主催するメモリアルマーチ

奈良公園で開催される「なら灯花会」でお化けスイカ作り

鳥取県大山の一木一石運動

「博多どんたく港祭り」のどんたくパレード

大分県玖珠町が主催する「豊後森機関庫まつり」

(4) 鉄道少年団の体制強化

令和5年7月1日に「従たる事務所」の統廃合を実施して、1総支部30支部体制から2総支部12支部体制に組織改正し、支部組織を効率化することで、エリアの一体感を向上させ、鉄道少年団は指導者が中心となって指導員体制の確立に取り組んできた。

(5) 公徳キャンプ全国大会の開催

令和5年度「第67回公徳キャンプ全国大会」は、東海旅客鉄道株式会社のご協賛いただき、交通道徳協会半田支部の主管により、愛知県美浜町の「県立美浜少年自然の家」で海と山に囲まれた自然豊かな環境の中で、明日の自分を見つけるキャンプにしよう！「さあ、一歩前へ」をテーマに行われたが、コロナ禍で4年ぶりの開催を考慮し、本来キャンプは3泊4日の日程を一日短縮して2泊3日のキャンプとなった。大会期間中は、好天に恵まれ連日起床から「朝の集い」で、団体行動訓練を実施して訓練の重要性と組織における相互理解を深めることができた。

キャンプは施設周辺の山の展望台から海岸に下りて砂浜や磯を進み野間崎灯台までのウォークラリーは、真夏の暑い日差しの中で山あり谷あり海ありのコースを団員から指導者まで全員が走破した。工作では、団員が美浜の美しい砂と浜辺の貝殻を使ったオリジナルな砂時計を完成させた。最終夜クライマックスのキャンプファイヤーでは、火の神儀式から始まり全員が歌い、舞い踊り、一つの火を囲んで、みんなで力を合わせて協力する大切さと友情の輪を広げることができた。

本キャンプの前段では、リーダー研修を1泊2日で実施し、全国鉄道少年団から推薦された将来のリーダー的存在となる団員の教育を実行委員が中心となって行い、本キャンプ各班の班長・副班長として班を統率し、スケジュール調整や他の班との連携等、指導力を遺憾なく發揮してキャンプの要となる役割を果たした。

開催時期	8月 9日～8月10日	リーダー研修
	8月10日～8月12日	本キャンプ

開催地 愛知県美浜少年自然の家
愛知県知多郡美浜町小野浦1-1

参 加 者 213名

・ 鉄道少年団員（38団）	105名
(内リーダー研修受講)	25名
・ 本部・団長及び指導者	56名
・ 実行委員	15名
・ 事務局スタッフ	33名
・ 来賓	4名

(6) 全国鉄道少年団作文コンクールの開催

令和5年度「第41回全国鉄道少年団作文コンクール」は、交通新聞社の後援を得て開催し、団員、指導員、指導者及び保護者の方々から応募された作品数や作品内容は、全国の鉄道少年団が本格的な活動を始め公徳キャンプ全国大会が開催される状況の中で昨年度を上回る276編の応募があり、作品内容も公徳キャンプに参加できた喜びやコロナ禍で出来なかった団体行動訓練を再開して組織力を高め、実践活動では制服を着用した視点で鉄道を利用される人々の動きを捉えた作品等、コロナ禍以前と変わらない作品が多く寄せられた。先般、応募作品の審査を行い、審査結果を基に、小・中学生の各受賞作品を選出し、令和6年3月1日に表彰を行った。

・ 作品の応募状況

小学生の部	112編
中学生の部	74編
高校生の部	50編
一般の部	24編
保護者の部	16編
	合計 276編

・ 審査結果

金賞	小学生の部	2編	中学生の部	2編
銀賞	小学生の部	4編	中学生の部	4編
銅賞	小学生の部	6編	中学生の部	6編
佳作	小学生の部	8編	中学生の部	8編

(7) 部外団体主催の作文コンテストに参加

法務省の「社会を明るくする運動」東京都推進委員会が主催する第73回作文コンテストに東京鉄道少年団5編、八王子鉄道少年団17編の応募があり、犯罪や非行のない地域社会づくりについて、自らの体験を通じて感じたことを綴った作品が寄せられた。

3 広報誌の発刊

広報誌として「明るい旅」は、時代とともに進化していく社会の在り方や価値観も変わっていく中で、社会貢献事業や地域の活性化に取り組み社会を元気にしている企業や団体を紹介から全国各地の鉄道沿線から駅から街へ自然と歴史にふれあい、受け継がれる文化と街並の魅力で地域社会の健全な発展と子供たちに夢を語れる社会を目指し、JR各旅客会社とグループ会社及び協賛団体や企業等のご支援・ご協力をいただき発刊している。

(1) 「明るい旅」の編集

各界でご活躍されてきた方々からの「メッセージ」、スポーツを通して自然保護に貢献するイベントや地元の人に支えられ涙と感動で公演する市民劇団に「クローズアップ」、食品ロスに取り組む「Step by Step」、駅や列車を利用する誰もが思いやりとマナーを守ることで事故やトラブルを防ぎ、安全・快適にご利用いただけるために全国の鉄道会社が取り組んでいる「鉄道マナー考え方」

日本各地の自然豊かなローカル線をイラストでイメージストーリーする「もっと先のレールウェイ」、鉄道少年団の活動やJR各社とグループ会社等のトピックスを紹介する「列島縦断」、エリア毎に鉄道少年団が活動する街を紹介する「わが街わが少年団」、鉄道少年団と徳川家康が天下統一の基礎を築いた浜松、路面電車で歴史に触れる広島を旅して、戦国時代の人物・文化を体感する「鉄の細道」、鉄道で行く旅シリーズは、「一望できる湖」、「全国の銀座商店街」で構成した。

(2) 「明るい旅」の発刊及び発行

「明るい旅」は、平成27年度から広報誌にリニューアルして四季毎に4回発刊してきた。昨年度はコロナ禍の影響で3回発刊したが、今年度は春号と冬号の発刊と4年ぶりに開催した「公徳キャンプ全国大会」を「明るい旅」の特集号として発行し、全国の鉄道少年団関係者に配付した。

広報誌「明るい旅」の主な配布先

全国図書館	2,100冊
公共施設（図書館除く）	3,400冊
JR 6社関係	1,900冊
当協会関係（会員・鉄道少年団）	2,600冊

4 鉄道少年団全国指導員会議の開催

鉄道少年団は、指導者の高齢化と後継者不足が深刻化する中、持続的な発展に向けた組織体制を確立するため、「全国鉄道少年団規約」で指導員を規定化することで、鉄道少年団は指導員を確保し、リーダーシップ習得から活動立案等、組織を育てるリーダーの育成を全鉄道少年団が取り組めるよう「鉄道少年団活性化プロジェクト」を発足し、スタッフが中心となって指導員の横糸を紡いできたが、これまでの指導員の人選から育成・活動状況を共有化して統制のとれた組織の構築を効果的に進めるために全国指導員会議を開催して現状と課題を議論し、相互に理解を深め課題を解消していくこととした。

5 鉄道少年団全国代表者会議の開催

「令和5年度 鉄道少年団全国代表者会議」は、昨年度に引き続き西日本総支部管内の支部・鉄道少年団も一堂に会して、令和6年3月1日に開催し、「第41回全国鉄道少年団作文コンクール」の表彰を行い、優秀作品に金賞・銀賞・銅賞・佳作と最優秀作品に交通新聞社賞が授与された。

会議では、令和6年度に新潟県胎内市で開催される「第68回公徳キャンプ全国大会」の概要及び参加募集について、東日本連絡協議会から説明があった。本部からは、令和6年度の事業計画、鉄道少年団の現状と今後の課題として、従たる事務所と鉄道少年団の組織体制、鉄道少年団の制服等について協議したが、限られた時間の中で結論を得ることはできなかったものの、活動上の課題や情報を共有化することができた。

6 評議員会、理事会等の開催状況

評議員会 令和 5年 6月 27日
令和 6年 3月 27日

理 事 会 令和 5年 6月 8日
令和 5年 6月 30日
令和 6年 3月 21日

附 屬 明 細 書

1 令和5年度 全国鉄道少年団活動実績

活動項目		回数(回)	参加人員(名)
マナー向上運動	清掃活動	230	2,994
	募金活動	5	85
	福祉活動	17	183
事故防止活動		16	228
会議・イベント	各種会議	199	878
	行事・催し物	127	1,773
体験学習	講習会	95	1,180
	見学・視察	95	1,367
	スポーツ・ハイキング	24	273
その他の	キャランプ	59	455
	上記以外の活動(自宅等)	89	835
合計		956	10,251

2 令和5年度 第41回全国鉄道少年団作文コンクール実施結果

	応募数
小学生の部	112
中学生の部	74
高校生の部	50
一般の部	24
保護者の部	16
合計	276